



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

私の日常。夕方の外来が終わるのが20時前。そこから夜の往診を車で回ります。夕飯にありつけるのは22時かな。ラーメン屋の片隅で夕刊フジと、月2回はビッグコミックオリジナルを讀むのが癒しのひとときです。ページをめくり終わり、『浮浪雲』がないことが未だ寂しいオジサンです。

『浮浪雲』の連載が始まったのは1973年。まだ10代だった私は、今まで読んでいた漫画のヒーローとは全く違う主人公の「雲」に憧れました。仕事はろくにせず、酒好きで女にもたらしめない。だけど曲がったことが嫌いで実は剣術の達人。幕末が舞台なのに、登場人物たちの面倒くささと可愛さ、男と女のどうしようもなさ、リアルに胸に迫ります。

162 漫画家 ジョージ秋山



この名作の生みの親・漫画家のジョージ秋山さんが5月12日に亡くなったとのこと。享年77。死因は明かされていません。

在宅医療とは、百人百様の家族模様と向き合う仕事でもあります。私には2500人以上のお看取りをしてきましたが、今でもふと、そう考えることがあります。

「死」は生物学的ですが、「死因」はあくまで社会的なもの。もちろん、死亡診断書に死因を書くことが看取った医師の義務ですが、秋山さんのように、世間にヒミツにすることは十分アリです。

「何の病気で死のうが、俺の人生とは関わりのないことだからね」と仰りそうな気がしたので、私もその死因とは何だろう。私は2500人以上のお看取りをしてきましたが、今でもふと、そう考えることがあります。

「死」は生物学的ですが、「死因」はあくまで社会的なもの。もちろん、死亡診断書に死因を書くことが看取った医師の義務ですが、秋山さんのように、世間にヒミツにすることは十分アリです。

「死」は生物学的ですが、「死因」はあくまで社会的なもの。もちろん、死亡診断書に死因を書くことが看取った医師の義務ですが、秋山さんのように、世間にヒミツにすることは十分アリです。

明かされていない「死因」

「死」は生物学的ですが、「死因」はあくまで社会的なもの。もちろん、死亡診断書に死因を書くことが看取った医師の義務ですが、秋山さんのように、世間にヒミツにすることは十分アリです。